

広げよう！優良実践の輪！

～平成29年度 優良実践校の取組～

取組 1

日本「美しい総社中央小学校を」 目指して

総社市立総社中央小学校

1 はじめに

本校は、「日本一美しい中央小」という一度聞いたら忘れられないスローガンの下「自分で乗り切る力」「友達同士で支え合う力」の育成を目指して様々な取組を行っています。特にこの4年間は、「総社市だれもが行きたくなる学校づくり」をベースに「協同学習」「保こ幼小中連携」「積極的な生徒指導」「特別支援教育・登校支援」に力を入れています。

2 取組の概要

(1)学習内容が深まる協同学習
「焦点化」「学びの系統」に重点をおき、思考の交流を促進する協同学習に取り組んでいます。

①焦点化



なぜそう考えたの？

もう少し詳しく教えて。

まとめるとこうなるよ

思考の交流が行われている協同学習

ねらいや活動を焦点化することで、何を学び、どのような学習をしていくのかを児童自らがつかむことができるようになりました。

②学びの系統

系統を意識することは学習内容を明らかにすることであり、何を物差しに学習すればよいかという見通しにつながりました。

(2)中学校区の保こ幼小中連携

中学校区の共通のスタンダードをつくり、同一歩調で教育を行っています。教育の方向性が常に同じであるため、児童や保護者の安心感につながっています。

(3)積極的な生徒指導

児童にとつて分かりやすい「挨拶」「掃除」「言葉遣い」を重点に生徒指導を行っています。6年生を中心に児童が自主的に活動できるように仕掛けをしています。6年生が、それは「認める」という仕掛けです。認められることで居場所ができ、学校を良くしようとする伝統ができてきました。

(4)特別支援教育と登校支援

実態を把握して共通理解を図り、学校が居場所になるように全員で声掛けをするようにしま



毎朝続けられている6年生や運営委員によるボランティアのあいさつ運動

した。また、一人一人にめあてをもたせ、自らの力で解決に向かうようにさせ、生きる力へつなげていきました。

3 おわりに

この4年間に、学校環境適応感尺度(アセス)は上昇し、長期欠席者も大幅に減少しました。ボランティア活動など主体的に取り組む児童が増えたと実感しています。今後も生き生きと活躍する児童の育成を目指し、職員一丸となり協同して取り組んでいきたいと思えます。

(校長 横山 昌弘)